

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金
平成30年度 第3回理事会議事録

1. 開催日時 平成30年11月6日(火) 9時30分から11時10分
2. 開催場所 福井市文京3丁目9番1号 福井大学本部棟第1会議室
3. 出席者 理事総数 11名
出席理事 8名
理事長 細谷龍平
理事 一居利博, 黒原繁夫, 高比良博則, 館 清隆, 橋本明弘, 平塚幹夫,
方橋孝貴
監事総数 2名
出席監事 1名
監事 川村武士
陪席者 6名
坂井 太 (公益財団法人福井県アジア人材基金), 岩本雄太 (公益社団法人
福井青年会議所次期理事長), 野尻純平 (同次期副理事長), 高嶋佑輔 (福
井県総務部大学・私学振興課), 北村幸一 (福井市グリフィス記念館),
藤原卓也 (福井商工会議所)

4. 議 題

審議事項

第1号議案 当基金の立て直しに向けた諸方策について

- (1) 広報の強化
- (2) 関係機関との連携強化
- (3) 収入の強化策
 - (イ) 短期
 - (ロ) 中長期
- (4) 支出の見直し
 - (イ) 財産取り崩しのあり方
 - (ロ) 支援事業の見直し
- (5) 財産の運用のあり方

第2号議案 助成事業の審査委員会要項について

その他

5. 定足数の確認

理事総数11名中8名の出席があり、定足数を満たしていることを確認した。

6. 議事概要

(1) 審議事項

第1号議案 当基金の立て直しに向けた諸方策について

理事長から報告、提案した以下の諸点について活発な議論を行い、関係機関の協力も得つつそれぞれ実施していくことを承認した。

(1) 広報の強化

理事長から、広報強化の第一歩として、現行の当基金ウェブサイトのリニューアル案を説明した。装いを刷新する他、関係機関との連携強化(下記参照)の一環としてこれら機関へのリンクを貼り、また、日下部・グリフィスのストーリーの紹介文にグリフィスの帰米後の活躍を書き加えている他、末尾の関係資料ページには、福井大学図書館のグリフィスコレクション(最近ラトガース大学アジア学科長よりグリフィスの真筆資料の贈呈があった)へのリンク、及び当基金の設立などに功績があつ

た青年会議所第14代理事長酒井康行氏の手になる資料「あれから40年」を掲載した。また、今次理事会開催を皮切りに「What's New」記事も掲載したいとした。

各理事から賛意が表明された中で、関係機関へのリンクに加えそれら機関が行う事業へのリンクも適宜貼ってはどうかとの提案があり、理事長から、当基金に関係がある事業について申し出があれば応じたいとした。

(2) 関係機関との連携強化

理事長から、当基金設立を推進しその後も協力を継続してきている福井青年会議所とは特に連携を図って行きたいとした。また、当基金と同様に県内学生の国際交流を支援してきている福井県アジア人材基金と、事業の棲み分け及び連携の可能性について協議してきている旨紹介した。福井大学を介したラトガース大学との協力も含め、その他関係機関とも適宜連携して行きたい旨述べ、全員異議なくこれを承認した。

(3) 収入の強化策

(イ) 短期

理事長から、まず、当基金の認知度を若干でも高めることを主眼として、青年会議所はじめ関係機関の協力を得て、関係方面に募金箱の配置を働きかける事業の構想を提案した。募金箱はボール紙を組み立てる簡略なものとし、寄付者には現金ではなく一口百円の寄付額を約束手形のようなものに記入の上募金箱に投函してもらい、後日まとめて集金の方式とする予定であり、まずは、青年会議所の作文コンクール入賞経験者などの現在の所属組織に一定期間配置してもらうよう依頼することを想定しているが、配置場所の輪はその他関係機関の協力も得て適宜広げて行きたいとした。また、併せて理事長から本事業は下記(ロ)の中長期の事業にもつなげていきたいと発言があった。各理事から、異論はなく、本案を承認した。

(ロ) 中長期

理事長から、2020年はグリフィスが1870年来日してから150周年にあたり、日下部とグリフィスの母校で福井大学が昨年学術交流協定を更新したラトガース大学は、2020年5月に、同大学の最優秀の学生15-20名のグループを福井に派遣予定である旨紹介した。その目的は、同グループが、明治初期の日米関係について研究・学習する一環として2週間来日する機会に、福井も訪問し、「グリフィスが見た福井」をテーマとした学術的な交流を行うことにある。当基金としてもこれを機と捉え、福井大学などとともに、上記テーマに係る日米共同シンポジウムなどのイベントを開催することを検討したく、またこれを広報上のインパクトのあるものとして基金の収益増にもつなげたいと理事長から発言があった。

各理事からは、一様に賛意が表明され、また次のような意見があった。

- ・2年後のイベントは、その後も、日下部・グリフィスの認知度向上と当基金の収益増に長く繋がっていくようなものとするのが重要である。
- ・シンポジウムの開催に合わせたクラウドファンディングの立ち上げも検討してはどうか。
- ・これを機にニュージャージー州のベンチャー企業などの若手実業家との交流を企画できる。
- ・グリフィス来日150周年の節目を迎えるに当たっては、これまで当基金の助成申請をしてきた各団体にも関連企画を出してもらってはどうか。

以上の意見も含め本案の実現を図っていくことを承認した。

(4) 支出の見直し

(イ) 財産取り崩しのあり方

理事長から、これまで当基金財産を切り崩してきた推移を概略説明の上、当面は平成29年度並みの取り崩し額(300万円程度)を基本的には維持しつつ、上記(3)の事業などによる収益の状況及び下記(ロ)の支援事業の内容も勘案して、要すれば若干弾力性を持たせて運用して行きたいとの説明があり、全員異議なくこれを承認した。

(ロ) 支援事業の見直し

理事長から、現在（平成30年度）までの助成事業は、ほぼ固定化された学生・生徒の交流事業支援が中心となっており、その意義は十分に認められるものではあるが、当基金の本旨はその名称のとおり学术交流の支援にもあることの説明があった。なお、今後適切な応募案件があれば、特に日下部・グリフィスに係る学術研究事業にも助成をしていきたい旨、発言があり、審議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(5) 財産の運用のあり方

理事長から、当基金の財産運用について、これまでは公益財団法人としての性格に鑑み、銀行預金と国債・公債からなる基本的にリスクのない投資に限定してきていると説明し、昨今の諸事情に鑑み、これを若干でも見直すことの適否について、各理事の意見を諮った。福井銀行の委員から銀行の立場からの技術的な説明があり、今後検討していくこととした。

第2号議案 助成事業の審査委員会要項について

理事長から、上記（4）（ロ）の支援事業見直しの趣旨を踏まえ、助成申請があった事業の審査委員会についても今般その要項を見直したとして、改定要項（案）を提示の上説明した。同委員会は、理事会の下に置くことなどの基本は維持しつつ、委員の構成については、初等、中等、高等教育及び研究の各レベル、並びに行政、民間、教員及び大学事務職員など職種上のバランスも取るため若干の入れ替えを行った旨詳細な説明を行った。また、委員会がその審査に当たって依るべき基準について、理事長としての案を諮り、全員異議なくこれを承認した。

以上をもって、議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、出席した理事長及び監事は、次のとおり記名押印する。

平成30年11月6日

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金

議長 代表理事（理事長）

細 谷 龍 平

監 事

川 村 武 士